

難波宮にして作る歌一首 并せて短歌

一〇六二番

やすみしし 我が大君の あり通ふ 難波の宮は  
いさなとり 海片付きて 玉拾ふ 浜辺を近み  
朝はふる 波の音騒き 夕なぎに 梶の音聞こゆ  
暁の 寢覚に聞けば いくりの 潮干のむた 浦  
渚には 千鳥妻呼び 葦辺には 鶴が音とよむ  
見る人の 語りにすれば 聞く人の 見まく欲り  
する 御食向かふ 味経の宮は 見れど飽かぬか  
も